

五期俳句会 第百六十四回 四月七日

先月全員揃ったのに、食事処の関係で、今月から火曜日に変更され、私も五日に塩田さんに確認して七日に行きましたが、今井さんは六日に来て俳句を受け付けに預けて帰られました。

本当は月曜日に会が有って火曜日がジムが休みなので、その時にインプットしたいのですが、やはり美味しいものが食べたいので我慢。

そんなわけで句は揃いましたが、四名で開催。

何狙ふ春空高く鳶の舞

松浦武子

散る花や刹那の生命惜しみなく

塩田豆子

能登岬あえかな命雪割草

松浦武子

歩を止めて暫し見惚れる桜かな

塩田豆子

山菜さんしゆゆ萸やふる里の庭黄のほのか

今井由紀子

スーパーを出て花吹雪浴びにけり

浅香さとみ

雅やか社を飾る八重紅梅

松浦武子

逝く人の愚痴あまた有り花吹雪

今井由紀子

絵巻もの見るよな宇治の花御堂

塩田豆子

児の歓声どこからか流れ来る

シヤボン玉

浅香さとみ

夕べつぼみ今朝晴れやかに花こぶし 今井由紀子

春寒の道をたどりて句会かな 久貝貞子

巢立つ子を見送る母は風の中 今井由紀子

北の古都ピンクの馬酔木華やかに あせび 松浦武子

菜の花に季節かみしめ辛し和え 塩田亘子

プランターあふれんばかり桜草 浅香さとみ

満開の花と茶そばと鳳凰殿 塩田亘子

柳の芽組紐模様細やかに 今井由紀子

天候があまりにも不順で句づくりも大変です。花の見ごろも短くどうつくろうかとうろろします。もう少し安定したら、一度吟行を考えています。